

# JIS の改正について①

## 繊維製品等の法律に関わる最近の動向 File. 1

繊維製品等に取り付けるケアラベル（取扱い絵表示）の国際統合化を図るため、現在の JIS 表示を ISO 表示に整合させるための作業が進んでいます。具体的な動きとしては、取扱い絵表示を定めた JIS L 0217 を改正するため、一般社団法人繊維評価技術協議会を事務局とする JIS 原案作成委員会が検討を行っています。

新 JIS の原案完成までには、もう少し時間が掛かるようですが、現状での JIS 改正に関する各種情報や、それに伴う関係業界の動向等についてシリーズで紹介していきます。

### 1. JIS と ISO の整合化（＝国際標準化）を図ることの背景

■日本をはじめ世界の先進国等 158 カ国が加盟する世界貿易機構（WTO）では、1995 年に WTO/TBT 協定を発効しました。これにより、加盟各国は貿易の障害をなくすため、様々な産業分野で、国際規格 ISO への整合化を進めてきました。

日本国内の動きとしては同年、規制緩和推進計画を立て「国際的に開かれ、自己責任原則と市場原理に立つ自由な経済社会としていくことを基本として、規制緩和などを計画的に推進する」としました。

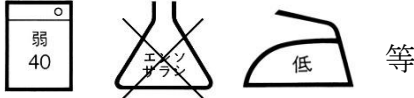

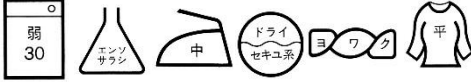
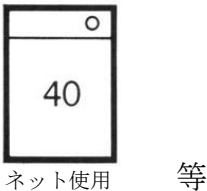
■また、WTO/TBT 発効により欧米諸国の動きが活発化する中、2006 年に日本政府は国際標準化戦略化目標を掲げ、ISO 規格への世界市場における戦略的な日本の競争力確保・強化を目指しました。

■そして現在、繊維産業においては、内外の要求に対応するため、繊維製品の取扱い絵表示を ISO 規格に準拠したものとするよう作業が進められています。

### 2. 日本の JIS 規格と国際規格 ISO の違い

■表示記号（取扱い絵表示）とその表示方法及び試験方法の大まかな比較

内 容	JIS 規格	ISO 規格
表示記号と表示方法	JIS L 0217 : 1995 に定められています。	ISO 3758 : 2012 に定められています。
試験方法	JIS L 0217 : 1995 に家庭での洗濯取扱いのための試験方法が定められています。	ISO 6330 : 2012 に家庭洗濯・乾燥試験方法が定められています。 また、ISO 3175-1~4 に商業洗濯（クリーニング）の試験方法が定められています

<p>表示記号（取扱い絵表示） の種類</p>	<p>6分類 2 2種類</p> 	<p>5分類 4 1種類 (ISO 3758 : 2012)</p> 
<p>両規格の取扱い絵表示全掲載資料は<a href="#">こちら</a>（経済産業省 発表資料）</p>		
<p>表示記号の定義</p>	<p>家庭での洗濯等の取扱い方法 について指示するものです。</p>	<p>回復不可能な損傷を起こす ことのない最も厳しい操作 に関する上限情報です。</p>
<p>表示方法 (左から右へ順番に)</p>	<p>洗い方 ↓ 塩素系漂白の可否 ↓ アイロンの掛け方 ↓ ドライクリーニング ↓ 絞り方 ↓ 干し方</p> <div data-bbox="549 1240 1059 1413" style="border: 2px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div>	<p>洗い方 ↓ 塩素系・酸素系漂白 ↓ タンブル乾燥（家庭での） ↓ 自然乾燥 ↓ アイロン ↓ 業者による ドライクリーニング ↓ 業者による ウエットクリーニング</p> <p>※“5分類” = 乾燥方法を示すタ ンブルと干し方、商業洗濯のドラ イ、ウエットがそれぞれ一括りと なっています</p>
<p>表示記号への付記</p>	<p>洗い方で、“中性”（中性洗剤使用） や“ネット使用”、アイロン での“あて布”があります。</p> 	<p>表示記号への付記はありませ ん。 ただし、JIS にもある付記用 語と同様の文言が各種ありま す。</p>

表示記号の省略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水洗い可の表示の場合、ドライクリーニング禁止以外は表示を省略できます。</li> <li>・絞り方と干し方は任意です。等</li> </ul>	省略は可能です。ただし、省略した場合は、最も厳しい操作に耐えうると判断されます。
---------	---	--

#### ■表示記号の相違点のポイント

- ・ ISO になくて、JIS にあるもの → 絞り方の表示記号
- ・ JIS になくて、ISO にあるもの → 家庭でのタンブラー乾燥に関する表示記号  
→ 酸素系漂白剤、非塩素系漂白剤の表示記号  
→ 商業洗濯（クリーニング業者）向けの表示記号

#### ■以前の主な相違点

（[一般社団法人繊維評価技術協議会](#)による日本提案で、ここ最近 ISO 規格に取り入れられた内容）

- ・ JIS にある自然乾燥記号（干し方）が ISO にはありませんでした。
- ・ 日本で一般的に流通している「パルセーター型」洗濯機による、水洗いの試験方法が ISO にはありませんでした。



パルセーター型（日本）



アジテーター型（アメリカ）



横ドラム型（ヨーロッパ）

※アジテーター型、横ドラム型（ウエスケーター）での試験方法は、元もと ISO にありました

### 3. 今まで、JIS と ISO の整合化が進まなかった理由

- ISO の表示記号については、GINETEX（繊維製品取扱い表示のための国際協会）が商標権を持っており、権利関係の整理がされていなかったことが一番の大きな理由と言えます。
- また、「2. 日本の JIS 規格と国際規格 ISO の違い」で触れたような制度上の違いと、その背景にある各国の洗濯習慣の違い、洗濯機の違い、水の違い等が大きな壁として存在しました。

**次回、《JIS 改正②》では、改正議論が進む  
現状の新 JIS 案についてポイントを紹介します**